

審判上の注意事項

大会審判委員長

- 1、本大会は、平成29年度 公益財団法人 日本バレーボール協会9人制競技規則及び同競技要項により実施する。
- 2、試合はすべて3セットマッチで、プロトコール方式で行う。
- 3、公式練習の際には、エントリーされた選手とチーム役員のみが、アリーナに入ることができる。
- 4、チームは、15人以内の選手と大会で既定されたチーム役員で構成する。
- 5、トスに勝ったチームキャプテンは、サービスをする権利か、サービスを受ける権利、またはコートのおずれかを選択する。
- 6、監督またはゲームキャプテンが、競技中断（タイムアウト、選手交代）の要求をする場合は、ハンドシグナルを示すこと。また、選手交代の要求の際は、交代するコート内の選手の番号を告げるとともに、複数の選手交代を同時に要求する場合は、その組数を示すこと。
- 7、競技中断（タイムアウト、選手交代）の要求は、プレーがノーカウントとなった直後は認められない（要求することはできない）ので注意すること。
- 8、監督は、試合中、試合を妨害したり遅延させない限り、監督制限ラインの後方では立ったままで、あるいは歩きながら指示をしてもよい。
- 9、選手交代は、1セットに6回まで要求することができる。ただし、同じ中断中に連続して要求することはできない。同じチームによる2つの別々の選手交代の間には、ラリーの終了がなければならない。同じ中断中の2回目の選手交代の要求は、不当な要求として処置される。
- 10、選手交代の要求があった時、交代選手はユニフォーム姿になって、コートに入る準備をしていること。そうでない場合は、『遅延』の制裁を受ける。
- 11、タイムアウト終了の吹笛後、プレーをする選手は速やかにコートに戻ることに。
- 12、コートを交替する際、チームが9人の選手のみで構成されている場合は、2名程度の選手が、チームベンチの荷物を運ぶことを許可する。残りの選手は、ルール通りコートを交替する。
- 13、軽度の不法な行為があった場合は、再発を防止するため、そのチームはゲームキャプテンを通じて口頭で警告される。チーム内の2回目の軽度の不法な行為については、その競技参加者に対し、黄カードが示され警告の制裁を受ける。
- 14、試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて、ラリー終了後速やかに拭くこと。コート外まで幅広く濡れた場合は、審判が判断して指示するので、その指示に従い対応すること。尚、モップの使用は、タイムアウト、セット間、もしくは審判が指示したときのみである。この場合は、ベンチにいる競技参加者が速やかに行うこと。
- 15、タッチネットの反則となるのは、両アンテナ間のネット（アンテナを含む）に触れた場合である。アンテナ外側のネットに触れても相手チームの選手のプレーを妨害しない限り反則にならない。

以上